

コンポスト通信

Vol.7 令和5年6月発行

発行元：山形市浄化センター

〒990-0886 山形市嶋南一丁目11番5号

TEL: 023(684)3272 FAX: 023(684)3601

今、下水道コンポストが注目されています！

令和4年9月、岸田首相の「下水道汚泥・堆肥等の未利用資源の利用拡大により、肥料の国産化・安定供給を図ること」との発言を受けて、農林水産省は全国推進協議会を設立しました。

日本では肥料原料は海外からの輸入に頼る所が多く、最近是世界情勢の影響等で価格が高騰しています。国内で発生する下水汚泥資源を肥料として活用することは安定的な肥料の供給と持続可能な農業を実現していくために有意義なことと考えられています。

令和3年の時点で、全国2,000箇所近い下水処理場のうち1,000箇所の下水処理場が汚泥の肥料化に取り組んでいます。が、**全国の汚泥発生量に対して肥料としての利用は1割程度です。**

国土交通省は令和5年3月「今後、発生汚泥等の処理の検討に当たっては、肥料としての利用を最優先とすること。」と通知しました。

山形県内の汚泥発生量に対する肥料利用は現在約6割ですが、**山形市では昭和55年から、資源の再利用と廃棄物の減量化を図るため下水汚泥のコンポスト化事業を実施しており、原則全量肥料化しています。ここ数年は、大変好評でリピーターも多く毎年売売となっています。**

是非皆さんも、生産者の方々と共に改良を重ねてきた安心・安全な「山形コンポスト」を使ってみませんか。



「山形コンポスト」はこちらで販売しています

【販売店】

📍グリーンやまがた中央(天神町) ☎023-684-2724

📍グリーンやまがた西部(南石関) ☎023-646-5556

📍グリーンやまがた南部(上山市) ☎023-679-8656

【製造販売元】

東北三共有機(株)(前明石) ☎023-644-4214

※販売価格(6月23日現在):

1袋20kg入 505円(税込)

とれたて野菜で作ってみませんか



はちみつ酢玉ネギ

【材料】玉ネギ…1玉 酢…大さじ5

塩…少々 はちみつ…大さじ1~2

【作り方】①玉ネギは出来るだけ薄くスライスし、辛みを抜くため広げてしばらく置く(15~30分くらい)。

②保存容器に①とその他の材料を入れよく混ぜる。

③冷蔵庫で一晩寝かせたら出来上がりです。

ポテトサラダに付け加えたり、肉料理に添えたり、魚介のカルパッチョに合わせたりする食べ方をおすすめします。

※新玉ネギの場合、辛みは少なめなのでスライスした後すぐ漬けられます。

コンポストを利用した野菜づくり講座を行いました



3月16日、江南公民館でコンポスト農園利用者の方を対象に(23名参加)、講師に元山形県食と緑の交流プラザコーディネーターの木村正氏をお迎えして、「元気が出る生きがい農園づくり講座」を開催しました。

木村先生による「**コンポストはたくさんあげても大丈夫**」という話には安心しましたし、温度管理の話は参考になりました。「**まずは色々やってみる。楽しむことから健康や生きがいにも繋がっていく**」という趣旨には前向きな姿勢で臨むことを教わりました。木村先生、参加した農園の皆さん、どうもありがとうございました。

アンケートの結果をお知らせします

(感想)

- ・自分で種を蒔き、苗を植えて、野菜を育て旬の味を味わう。青空の下で心地いい汗を流す健康的な趣味です。
- ・「山形コンポスト」は下水汚泥から作られていると聞くと、野菜栽培に使う事の安全性に疑問があるように感じる人もいるので、もっと積極的に、理論的にデータを使った安全性のPRが大切と考える。
- ・周りの畑の作り方などを見ると、とても参考になり、楽しいです。
- ・子供も植え付けから水遣り、収穫までを体験でき食育に繋がった。
- (コンポスト利用時の工夫や気を付けた事)
 - ・苦土石灰・堆肥施用後、化成肥料と併用で元肥として使用。追肥としても使用した。
 - ・コンポストに米ぬかを多めに入れ、土によく混ぜて使っている(米ぬかにはリン酸、カリも多く含まれている)。それ以外の肥料は使っていない。
 - ・コンポストを施肥するタイミングと量、土のpHなどを測ったりした。
 - ・コンポストを耕作前と収穫後に撒いておく効果があると知り実施していこうと思います。
 - ・コンポストを施肥するとき、出来るだけ土に深めにすき込むようにした。

(その他)

アンケートに書いてあった、「虫予防になる相性の良い作物の組み合わせ」が参考になるのではないかと思います。こちらに載せておきます。①白菜とレッドリーフレタス(サニーレタス)②きゅうりと長ネギ③トマトとパセリ(バジルも良いそうです)。また、きゅうりの収穫後に枝豆を植えるとうよく育つという報告もありました。

あとがき

4月に雪が降り、5月に真夏日が来て、6月にもう台風の影響が表れるという、耕作される方には気を揉む事が度々ありました。天候にはとても太刀打ち出来ませんが、それを乗り越えて育っていく作物からはより一層の喜びが得られるのかと思います。もうじき暑さの厳しい夏が訪れます。体を大事に、特に外で作業をする皆さんは水分と塩分の補給を忘れずに行ってください。(大橋)

農園利用者の皆さんから頂いたアンケートの回答から、一部をご紹介します。